

口腔の役割

アヒル口

2016年8月に開催されたリオデジャネイロオリンピックでは日本選手のメダル獲得数は41個、史上最多を更新しました。シンクロナイズドスイミングの日本選手も大変活躍し、チームではアテネオリンピックから3大会ぶりにメダルを獲得し、大躍進を見せました。

井村ヘッドコーチひきいるこのチーム、実は大会の1年前にチーム内の某選手に、トレードマークの「八重歯」を抜くように指示をしたのだそうです。「シンクロの世界では、欧州の審判はドラキュラのように受け止めて、いい印象をもたれない」ことが理由で、少しでもマイナスにつながることは徹底して排除したそうで、このチームのメダル獲得にかけるストイックさが伺えます。

口もとの印象と言えば「アヒル口」もその1つ。10数年ほど前からこの言葉が使われはじめ、2005年に「現代用語の基礎知識 2006」(自由国民社)に「アヒル口」の語句が掲載され、以後、広く普及し、数年前には若い世代を中心に、「可愛い」と、ちょっとしたブームになりました。



人は相手の顔の表情から感情を読み取りますが、主に「笑顔は口、怒りは目」で判断しています。また国民性も関係しており、「日本人は相手の目、欧米人は口」を重視して表情を読み取る傾向があるのだそうです。

赤ちゃんが生まれて最初に識別できる表情が笑顔だというのは有名な話です。生まれたばかりの赤ちゃんの視力はとても弱く、まだものをぼんやりとしか捉えることができません。そんな視力でもお母さんの笑顔には好意的に反応します。笑顔の口の形をアルファベットで示すと“V”や“U”字型をしています。この形は赤ちゃんにとって、それがたとえぼんやりした表情でも伝わります。

人は生まれつきポジティブな表情＝笑顔を好む傾向があります。アヒル口は“V”や“U”と同様に、口角がキュッと上がった“W”字型なので、そもそも何もなくても「笑っている」ような口の形をしており、相手にポジティブな印象を与えやすいのだそうです(2010 野村理朗)。

さて、欧米では好まれないこの「八重歯」、日本での良し悪しは別にして、八重歯を持つ人の多くは、今も昔も人気アイドルを思い浮かべてみても、実はアヒル口だったことに気付かされます。



<参考文献>

著者 野村理朗「なぜアヒル口に惹かれるのか」メディアファクトリー新書 (2010)

【歯科口腔外科診療部長 今井 正之】

